

2月25-26日の米国株、日本株の下落について 米国金利上昇への懸念が強まる

2021年2月26日

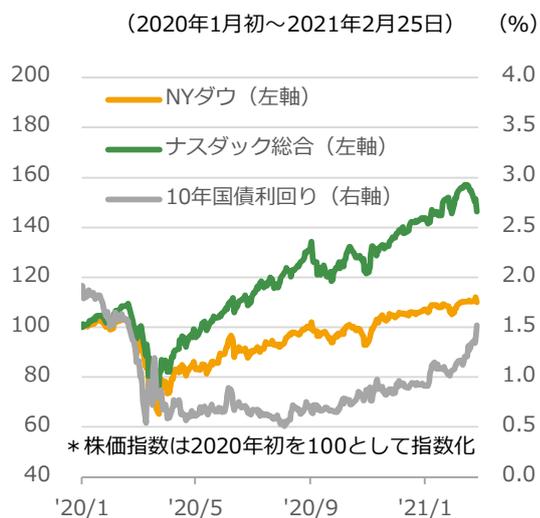
米国金利の上昇を受け、日米株とも大きく下落

2月25日（現地、以下同様）の米国株式市場では、NYダウが1.75%、S&P500指数が2.45%、ナスダック総合指数が3.52%下落しました。米国10年物国債の利回りが1.3%台から一時1.6%台まで上昇するなど、金利が大きく上昇したことが、株式市場では警戒されました。金利の上昇は将来の企業収益の価値にマイナスの影響があると考えられるため、将来性への期待が強い成長株を中心に売られました。

金利が上昇したのは、経済環境の改善を受け、極めて緩和的な金融政策の修正が前倒しで進むのではないかと懸念が高まったためです。耐久財受注や新築住宅販売、雇用関連指標など、今週発表された米国経済指標が総じて強かったことや、1.9兆米ドルの非常に大規模な経済対策が、同じく今週、米国下院予算委員会で可決されたこと、新型コロナウイルスワクチンの接種がおおむね順調に進んでいることなどが、その背景として挙げられます。

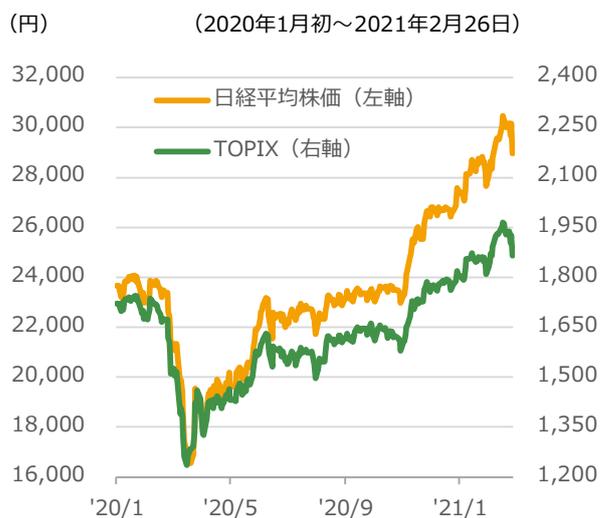
26日の国内株式市場は、米国株安の流れを引き継ぎ、大幅安となりました。国内株式市場においても米国の金利上昇への警戒感が高まったほか、需給が偏りがちな月末だったことも、下落幅が大きくなった一因とみられます。ただし、米国株にしても日本株にしても、昨年来、特に昨年11月以降の急速な上昇を勘案すると、ある程度の調整は市場の冷静さの表れであり、健全な動きと捉えることもできます。今後も米国金利の動向には留意すべきですが、あまり悲観視する必要はないと考えられます。

米国の株価指数と長期金利の推移



(出所) ブルームバーグ

日本の株価指数の推移



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。